社会科部会

あらためて「楽しく分かる」授業を子どもたちと

坂爪　邦雄

一年間の授業の最後に必ず生徒に授業の「感想」を書いてもらってきました。これは、「振り返り」という名の自己評価ではなく、授業づくりのためのものです。中学生は「楽しく分かる授業」を切望しています。授業を通して「変わった」自分を実感したいのです。最近、そんな言葉が溢れてきます。新学習指導要領による教科書と評価、それと結びついた「一人一台の端末活用」の押しつけと無関係ではないと思います。中学生は道具としてのタブレットは好きですが、「タブレット授業」に魅力を感じない生徒もでてきていると感じています。

教科書分析を通して教科書を見る目を鍛える

新教科書の特徴として指摘されているのは、①「一人一台端末」の導入を前提に、すべての教科書に二次元コードが付されるなど、学習のデジタル化をいっそう進めるものになっている。②「課題をみつけ、予想や計画を立て、観察や実験、調査から得られた結果を考察し、まとめて発表する」など、定めた流れに沿って学習活動の指示が詳細に示されている。③教育内容の増加、です。

すでに新教科書の閲覧が終わっていることでしょう。新教科書を批判的に検討しながら、新年度からの授業づくりに生かしていこうと考えています。

「楽しさ」が実感できる授業づくりを

社会はデジタル教材が有効な場面があります。それは生徒の知識理解を深め「なぜだろう」という小さな問いを生み出すためのものです。仲間と「考え」を交流する課程を通して「そうか」「なるほど」というステップを経て、新たな「問い」が生まれてくるもの、それが授業です。文科省の「主体的・対話的で深い学び」は生徒の「分かる」ということ「楽しい」という実感を軽視しているようです。

全日本教職員組合の勤務実態調査で教職員の深刻な長時間労働の実態が明らかになりました。「自主的研修」にかける時間がほとんどないという実態も教育の危機だと感じます。

平和な世界をつくるために何が必要だろう

東京教研集会社会科分科会では、「ウクライナ」「EU」「ロシア」「領土問題」をどう教えたかについての報告がありました。子どもたちの意見が多数紹介されました。子どもたちは心を痛めながら戦争の原因、両国の現状、日本への影響などを知りたがっています。そして何よりもどうすればこの戦争を終わらせることができるのか…。「だれもこれに対する納得のいく答え」を今日でも見いだしていないようです。

希望ある未来をつくることを使命とする社会科教育が大切にしたい課題です。

（東久留米・公立中）